



▲道の駅阿賀の里の船着き場にて

第9回

特集
2

阿賀の宝もん ★発掘レポート

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…
などを流域の未来に生かす取組を掲載。

新潟イザベラ・ バード研究会



▲バードと通訳伊藤のお面
を手にする伊藤頼子さん

新潟イザベラ・バード研究会 代表 伊藤 頼子さん

新潟市江南区生まれ、会社員。みるみる沢海まちあるき
ガイド代表や新潟シティガイドを務める傍ら、2019年に新
潟イザベラ・バード研究会を立ち上げ、代表として活動。

今から15年ほど前、ちょうどNHKの人気
番組「プラタモリ」が始まる頃、伊藤頼子さん
は新潟のまちあるきに関心をもち始め、実際
のイベントに何度か参加していました。その当
時から「もし自分がガイドだったら、こう案内
しよう…」という思いが、すでに芽生え始めて
いたそうです。

地域の歴史や地理に根ざしたまちあるきへ
の関心をさらに深めた伊藤さんは、「いいた
市民大学」で「新潟学」を受講した後、ガイド養
成講座を経て、平成26（2014）年に「新潟シ
ティガイド」としてデビューします。また、同じ
頃、地元・新潟市江南区の沢海地区でまちある
きガイドの団体が立ち上がり、その代表にも
就任しました。

バード来日140周年を前に

まちあるきガイドとして活躍し始めた伊藤
さんが、イザベラ・バードに深く関わるきっかけ
となったのは、バード来日140周年（平成29

イザベラ・バードについて

イザベラ・バードは、イギリス生まれの旅
行家・紀行作家で、ハワイ諸島やロッ
キー山脈を探検後、明治11（1878）年
に日本への大旅行を決行し、「日本奥
地紀行」を著した。

5月20日に来日したバードは、北日
本の踏査及び関西旅行をへて、12月
まで日本に滞在しました。なお、北日本
の踏査には、通訳兼従者の伊藤鶴
吉氏が同行しています。

また、新潟県内では、阿賀町津川
から阿賀野川を船で下り、小阿賀野
川・信濃川を通過して新潟町に滞在し
た後、本崎・黒川をへて、十三峠から
県外へ移動しました。

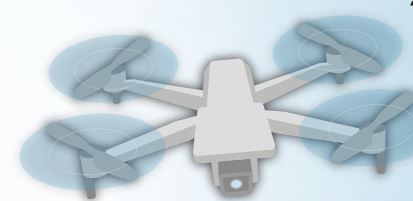


バードの通訳兼従者「伊藤」こと
伊藤 鶴吉氏
「近世名士写真集 其1」（近
世名士写真頒布会）掲載

※当該ルートは「イザベラ・
バード紀行「日本奥地紀行」
の謎を読む」（著者：伊藤孝
博／無明舎出版）に掲載さ
れたバードの北日本踏査の
全旅程図を参照して作成。



▲バードの北日本踏査のルート
船移動



ドローンの視点で

阿賀野川を上流から下流ま
で下る動画を見ながら、阿賀
野川の自然・現在を語り合う



鳥の目線で大河を下って
小型のドローンを地表100
メートルほどの高さまで飛ば
し、阿賀野川を上流から下流
まで下る鳥の目線となって撮
影した動画を眺めながら、阿
賀野川の自然や地理、現在の取
組について語り合いました。

当日の視聴者の中には、阿賀
野川を上空から眺めた動画に
驚かれた方も多く、ゲストの
方々から多様な解説もなされ
たことで、阿賀野川への多角的
な理解が促されました。



ゲスト

※上掲写真
左から…

水の駅「ビュー福島潟」事務局長
佐藤 安男氏
阿賀まちづくり株式会社 代表
堀口 一彦氏
阿賀町農林課長
江花 一実氏

【自然・現在編】

11/28(日)

15:00~17:30



▲蛇行して流れる阿賀野川の中流



▲阿賀野川上流の屈曲部



▲川幅が広がった阿賀野川の下流



▲上流にある旧鹿瀬工場

当日の様子を **YouTube** でご覧になれます！



次のURLもしくはQRコー
ドからご覧いただけます。

URL: https://youtu.be/M_InkcKYPyY



▲ゲストによる様々なプレゼン（解説）が行われました！

筑坂高×阿賀町 オンライン・ミーティング

(※筑波大学附属坂戸高等学校)

の開催内容を **オンライン配信** します!



2019年夏、教育旅行で阿賀町を訪れた筑波大学附属坂戸高等学校。彼らは町の人々との交流を通じて、阿賀町の魅力や課題、そして、新潟水俣病の光と影を学びました。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、阿賀町への教育旅行は中止されていますが、このたびオンライン会議システム「Zoom」を活用し、「**新潟水俣病の光と影に向き合う**」というテーマで、**高校生たちと阿賀町関係者がリモート交流会を開催**することになりました。

つきましては、**当日の様子をYouTubeでオンライン配信**いたしますので、興味をお持ちの方は、下記のとおりご視聴いただければ幸いです(※お申し込みが必要です)。

配信方法 YouTubeライブ配信 **配信日時** 2022.3.16(水) 13:30~15:30(予定)

参加方法 右のQRコード(または下のURL)から、お申し込み願います。お申込された方には、YouTubeライブ配信の視聴用URLを送信いたします。



URL: <https://forms.gle/p7anp3nujKLgfvVg9>

※いただいた個人情報は、「阿賀流域・連続ツアー講座」及び「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム」の開催案内や実施、及び、「阿賀野川えとこだより」の送付を目的とした用途以外に使用することはありません。

お問合せ 一般社団法人
あがのがわ環境学舎
0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

主催 新潟県
共催 筑波大学附属坂戸高等学校
運営 一般社団法人あがのがわ環境学舎
一般社団法人Raise your Flag
協力 (株)JTB川越支店・阿賀町役場・
黎明学舎

振り返り配信

阿賀野川オンラインツアー

阿賀野川オンラインツアーで流した2つの映像。
その完全版を一挙に上映するオンライン配信です。



▲バード目線の映像 ▲ドローン視点の映像

アフタートーク
4/3(日) 19:00~21:00

配信方法 YouTubeライブ配信 ※申込不要、当日、次のURLまたはQRコードからご覧ください。
URL: <https://youtu.be/bE-OEGtXnOI>

配信日時 2022.4.3(日) 19:00~21:00

ゲスト 新潟イザベラ・バード研究会 代表 **伊藤 頼子** さん 路地連 新潟代表 **野内 隆裕** さん

主催 一般社団法人
あがのがわ環境学舎 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp



▲新潟を来訪した、完訳本記者の金坂清則先生(写真中央)。写真右から2人目が伊藤頼子さん、写真左が野内隆裕さん。写真背景は阿賀野川の本尊岩。



▲完訳日本奥地紀行(イザベラ・バード著/金坂清則訳注/平凡社)

「2018年でした。その前年暮れに、まちあるきグループ「路地連新潟代表の野内隆裕さん」から「この本を読んでみて。新潟とバードの関係に着目すると面白いかも」とアドバイスを受け、伊藤さんは野内さんから薦められた「日本奥地紀行」を手にとりてみたのです。

「これまでの抄訳本では、新潟の記述がかなり省略されていました。でも、野内さんお薦めの金坂先生の完訳本(※上掲写真参照)に目を通すと、実はバードがかなりの文量を書いていた新潟を詳細に記述していたことがわかったんです」

このバードによる「新潟の記述」をもとに、県内各地をつなぐ新しい観光プロジェクトが起せるのでは……と考えた伊藤さんは、平成30年に入ると早速行動を開始します。完訳本を執筆された金坂先生との親交を野内さんとともに深めつつ、地域のまちあるきガイド団体と連携して野内さんの協力も得ながら、「津川から新潟へのルート」と「新潟から木崎・黒川へのルート」の2回にわたるモニターツアーを開催して、確かな手応えを感じました。



「バードには、あの時代に世界を股にかけて、異国の地を一人で冒険する好奇心や胆力、集中力があつて、現代の私たちから見ても大変魅力的な人物です。一方、観光や地域づくりの面から見ると、バードという目線を通じて各地域を見つめ直したり、広くつないだりできるんです。その意味で、新潟イザベラ・バード研究会は組織・団体というよりも、各地域のまちづくりやまちあるきガイドをつなぐ合わせるネットワークのような存在ですね」

続く令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大で開催を見合わせたものの、令和3年には若干規模を縮小しつつ県内参加限定で再開し、多くのの方々から好評を得ました。

バードの目線を通じて広域連携を



2022年「バードでつながるまちあるき」開催情報は詳細が決まり次第、新潟イザベラ・バード研究会の公式facebookに掲載予定です。

URL: <https://www.facebook.com/niigata.BIRD>



▲イザベラ・バードが見た明治の新潟を歩く2021チラシ